

令和2年度 中央区立有馬小学校		外部評価報告書	
外部評価委員：中野 耕佑 宮崎 弘次 矢川 春文 深山 健太郎 中多 宏之 森 功次 宇多 清二 吉岡 輝元 鈴木 一也(敬称略)			
報告書作成者：株本 光子			
評価時期 令和3年3月			
<p>1 重点目標の評価</p> <p>重点目標1「安心・安全な学校づくり」の構築</p> <p>コロナ禍で学校は、休校中、再開後ともに、児童の安心・安全を重点目標として取り組んだ。これに対して、教職員の100%、保護者の95%が肯定的な評価をした。</p> <p>このような適時適切な対応は、今後の学校運営の参考になる。児童の安心・安全を確保するために、何が、どうよかったのかをまとめておきたい。今までの重点目標を変えてでも、この重点目標にした考え、取組の工夫の仕方、教職員が一致して取り組めた理由等である。</p> <p>「どのように対処を決めたか」「実践してどうだったか」「その反省点」の視点で整理し、記録として保管すると決めた学校の姿勢は、今後の危機を乗り越える力になるであろう。</p> <p>重点目標2「学力の向上」を図る教育の充実</p> <p>確かな学力向上を図るために、「学習の遅れを補うためのきめ細かな学習指導を行ったか」、「課題を児童に丁寧に取り組ませたか」を質問した。学校で考えた様々な取組によって、教職員、児童の90%、保護者の85%が肯定的な評価をしている。学校の努力によるものと考えられる。この中でどんな取り組みがなぜよかったかを整理し、次年度に発展的につなげていただきたい。</p> <p>この結果を得たのは、データの左側から見た「肯定的な評価」を基にしたものである。データのもう一つの読み取り方は、グラフの右側の「当てはまらない、分からない」などの少数意見に着目することである。教職員の1～2人は、「あまりあてはまらない」と回答している。「なぜか」を遠慮なく言い合える職員室の雰囲気にしていくことは言うまでもないが、関係組織でその原因を明らかにし、効果のある改善策につなげることが大切である。</p> <p>また、「きめ細かな学習指導をしている」という教職員のうち、「当てはまる」72%、「よく当てはまる」25%である。「よく」と回答した理由、「できなかった」と回答した理由を明らかにする。「肯定的評価は、全体の95%である」との読み取りだけでは見いだせない現状や背景が見え、さらに効果のある新たな改善策につなげることができる。</p> <p>重点目標3「有馬スタンダード」や「体力向上」の日常的、継続的な取組の充実</p> <p>有馬スタンダードでは、7つの約束を94%の児童が「十分できている」、38%の教職員が「当てはまらない」と回答した。これに対して、学校は、児童と教職員の意識や理想像の違いが表れていると分析した。そして、「有馬スタンダード」の必要性を分かりやすく指導することが今後の課題とまとめた。教職員の児童への厳しさと愛情が見える。</p> <p>「分かりやすく指導するとは」どうすることかをもう一度全教職員で深く考えることを勧めたい。</p> <p>例えば、「話を最後まで聞く」とは、人権教育の観点から、相手を認め大切にすることであり、人権意識の定着にもつながる。教職員も互いの発言や児童一人一人の発言を最後まで聞く。などの改善策を発見するためである。今まで当たり前の指導と思っていたことを、数字をもとに立ち止まって考えることによって、指導観の質の向上、教育活動の質の向上が期待できる。</p> <p>2 今後の改善に向けた意見</p> <p>○ 児童アンケート「学校生活は楽しかった」に、「当てはまらない」と回答した児童が30名である。保護者アンケート「学校は、保護者にとって連絡や相談しやすい」に、「そうではない」などの回答が45名である。これらの項目は、少数回答でもそのままにせず、即改善策を立てる必要がある。学校は、担当組織を決めて分析し、この数値の意味を探り下げ、次年度への改善策を立てる必要がある。</p> <p>たとえ少数意見でも即改善を要する項目があることを理解して学校評価を進めていただきたい。</p> <p>3 その他</p> <p>○ 一人一人の保護者の意見は、学校改善への貴重なメッセージである。保護者の回答率100%を目指し、学校と保護者・地域が協働して児童の育成に当たることを期待する。</p>			

